

事務事業評価&総合計画実施計画調査シート

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	10 市史編さん事業	会計	01	一般会計
基本	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	款	02	総務費
策		項	01	総務管理費
		目	17	市史編さん費
細目	7 市史の編さん	細目	101	市史編さん事業
細々目		細々目	01	市史編さん事業
基本計画該当頁		143		行革大綱の重点事項番号
7				
担当部課	コード 010100	評価者	52 - 4380	
名称	総務部総務課(市史編さん係)	氏名	森岡良夫	連絡先 (内線)

事業の計画・内容

事業目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	伊賀市の歴史・文化に興味・関心をもち、ふるさと学習や郷土史研究等に取り組む市民全般(児童から大人)や伊賀地域の歴史に関心をもつ市外在住の住民や研究機関等 (※対象件数)	伊賀市の歴史・文化の形成過程を明らかにし、郷土の歴史に関する正しい理解を深めるとともに、市内外に当市の歴史的特色を発信することができる。また、編さんの過程で収集した資料を整理・保管し、次世代へ伝えると同時に市内外からの歴史に関する様々な照会に対し、適切に対応することができる。
事業内容	●『伊賀市史』第4巻 資料編 古代・中世 を計画どおり刊行した。●編さん事業を推進するための各種会議(市史編さん委員会・2回、編集委員会・3回、各時代の専門部会のべ23回)を開催し、編さんの基本方針や計画、編集方法を検討した。●市史編さん資料の収集として、マイクロフィルムによる資料撮影とそれに伴う資料目録作成、伊賀地域関係論文の収集等を行った。●事業の普及・啓発活動として、『広報いが』に「市史編さんだより」を4回掲載した。●販売促進活動として、市内外の講演会等で出張販売を行った。	・平成18年度に318万(13%)、平成19年度に110万(6.3%)の経費を削減したが、その理由は、編さん作業を進めるための人員(調査員=専門アルバイト)が不足したことによる。今後、計画どおりの刊行を進めるためには、大学院での専門過程を習得した人員の確保が必要となる。 ・平成21年度以降は毎年書籍を刊行する計画となっており、調査や掲載許可等に関わる諸手続、一般事務、原稿校正作業等により繁忙が想定されるため、臨時職員雇用が望まれる。
根拠法令・要綱等	伊賀市史編さん条例・伊賀市史編さん要綱	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 27 年度	三重県史編さん事業

整備内容

1 建設用地	千円
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	

運営体制

1 運営主体	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 民間委託等
委託先	人 千円
2 配置(予定)人員	
3 年間運営費	
4 市内の類似施設	

事業種別	継続	単独	事業類型	I	ソフト事業	2次評価対象分
------	----	----	------	---	-------	---------

事業実績

活動指標	単位	実績値		目標値	
		H18	H19	H20	H21
『伊賀市史』の発刊	巻	目標 0 実績 0	目標 1 実績 1	0	1
資料の調査・収集	点	目標 5,000 実績 16,140	目標 5,000 実績 6190	5,000	5,000
委員会・専門部会の開催	回	目標 15 実績 16	目標 15 実績 28	15	20

評価指標

事業の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
			H18	H19	H20	H21
『伊賀市史』各編の発刊巻数	『伊賀市史』全7巻を刊行計画に則り、発刊していく達成(累計)割合	%	目標 0 実績 0	目標 14 実績 14	14	28
『伊賀市史』各編などの有償・無償配布数(累計)	『伊賀市史』各編などの有償・無償配布累計冊数をもって事業成果の達成度合いとする。	冊	目標 0 実績 0	目標 350 実績 120	700	200

評価

評価項目	ポイント	評価項目についてのコメント
必要性	3	歴史や文化を守り、未来へと伝えていくためには、市内外の歴史に関するあらゆる資料を収集し、市史を編さんすることが必要であるが、その作業を個人や利益追求を目的とする民間事業主で行うことは不可能である。また、資料には個人情報を含む行政資料や散逸の恐れのある個人資料が多数あるため、それら資料の適正管理や迅速な収集が必要である。
有効性	3	これまでの事務事業の結果、19年度末に第1回配本の『伊賀市史』第4巻 資料編 古代・中世 を発刊することができた。また、発刊に伴い評価指標の一つである配布数も前年度と比較して大幅な増加を見込むことができる。
達成度	4	『伊賀市史』第4巻 資料編 古代・中世 を刊行計画どおりに発刊することができた。
効率性	4	事業の性格から、費用対効果を直接的に計ることはできないが、正規職員の削減や臨時職員の不採用で人件費を抑制した状態で評価指標の実績値を挙げつつある。また、専門の委員、調査員等の報酬も他市の事例と比べて抑制した状態のままであり、今後コスト削減の余地は少ないと考える。

総合評価	事業の方向性	改善についての取り組み
C	現状維持	事業費の大半が伊賀市歴史研究会の人件費と旅費であり、その単価設定も低く抑えているので、経費削減は困難な状況であるが、作業の効率性を高めることにより経費削減を努力する。 『伊賀市史』をはじめ既刊の書籍の販路拡大・販売促進に努め、歳入の増加を図る。

進捗状況	年度	平成18年度 決算内容			平成19年度 決算内容			平成20年度 計画内容			平成21年度 計画内容			平成22年度 計画内容			平成23年度 計画内容				
		事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額	事業内容	数量	金額		
委託 工事	事業内容	報酬・報償費		(千円) 168	報酬・報償費		(千円) 114	報酬・報償費		(千円) 228	報酬・報償費		(千円) 222	報酬・報償費		(千円) 222	報酬・報償費		(千円) 222		
		賃金・共済費		0	賃金・共済費		0	賃金・共済費		0	賃金・共済費		1,600	賃金・共済費		1,600	賃金・共済費		1,600		
		旅費		19	旅費		39	旅費		67	旅費		80	旅費		80	旅費		80		
		需用費		1,444	需用費		6,854	需用費		1,367	需用費		10,400	需用費		10,400	需用費		10,400		
		委託料		22,039	委託料		16,429	委託料		20,783	委託料		24,600	委託料		22,600	委託料		22,600		
備品購入費		827	備品購入費		609	備品購入費		50	備品購入費		250	備品購入費		250	備品購入費		250				
進捗率(%)			事業費計(A)	Σ	24,497	事業費計(A)	Σ	24,045	事業費計(A)	Σ	22,495	事業費計(A)	Σ	37,152	事業費計(A)	Σ	35,152	事業費計(A)	Σ	35,152	
事業投入人員		人件費(B)	1.7	人	12,240	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960	人件費(B)	1.8	人	12,960
フルコスト (A)+(B)				36,737			37,005			35,455			50,112			48,112			48,112		

事業費(人件費除く)の財源内訳

(A) 事業費	24,497	24,045	22,495	37,152	35,152	35,152
Aの財源内訳						
国庫支出金						
県支出金						
地方債						
受益者負担						
その他	663	509	1,309	500	1,000	1,200
一般財源	23,834	23,536	21,186	36,652	34,152	33,952
計	24,497	24,045	22,495	37,152	35,152	35,152
備考	その他特定財源の名称・補助基本額・地方債の区分と充当率等	雑入(書籍等売払代金)	雑入(書籍等売払代金)	雑入(書籍等売払代金)	雑入(書籍等売払代金)	雑入(書籍等売払代金)